

琵琶

ドンチャクワリン

2022.

12.10 (土) 開演14時

会場: 鉄仙会能楽堂

【プログラム】

- 一、琵琶秘曲 楊真操 (楽琵琶)
- 二、奈須与市 (平家琵琶)
- 三、雪晴れ (薩摩琵琶)
- 四、羅生門 (筑前琵琶)
- 休憩15分 -
- 五、五声のコンチェルティーノ 福嶋頼秀作曲 (邦楽アンサンブル)
- 六、琵琶越天楽～ドンチャクワリン～ 委嘱初演 高橋久美子作曲 (琵琶五重奏)

楽琵琶

琵琶秘曲 楊真操

作者不詳 中村かほる復曲

【解説】

「流泉」「啄木」とともに琵琶の三秘曲の一つとして知られる名曲。承和5年(838)遣唐使として唐に渡った藤原貞敏が、琵琶の始祖とされる唐の廉承武から伝授され、日本へ伝えたと言われている。平安時代中期以降、琵琶は平安貴族の中で特に愛好される楽器となる。中でも琵琶の独奏曲は秘伝とされ、詩歌管絃の教養が重んじられていた当時、天皇や上皇などの間でも相伝がなされていたことが知られているが、次第に演奏法が廃絶され、今日の雅楽では行われていない。「楊真操」は風香調という調絃で、現在の黄鐘調(洋楽のA音に近い音が主音)の調絃。琵琶が流行した時代に大変好まれた調べであったとされる。また、楊貴妃の作と言われており、玄宗皇帝の打つ鞞鼓とともに弾じていたとも伝えられている。『三五要録』(藤原師長1138-1192撰)という古い琵琶譜にこの曲が記載されている。

【楽琵琶について】

■成立時代

奈良時代頃に日本に伝えられ、平安朝の貴族たちに親しまれた。

■材質

本体:沢栗、花梨、紫檀など 絃:絹糸 撥:柘植

■日本の社会、文化にどのような影響を与えたか

当時の琵琶を知る上において重要な資料となる文献や「源氏物語」「枕草子」などの古典文学作品、説話などに登場し、古の世界へ誘う魅力を伝えている。

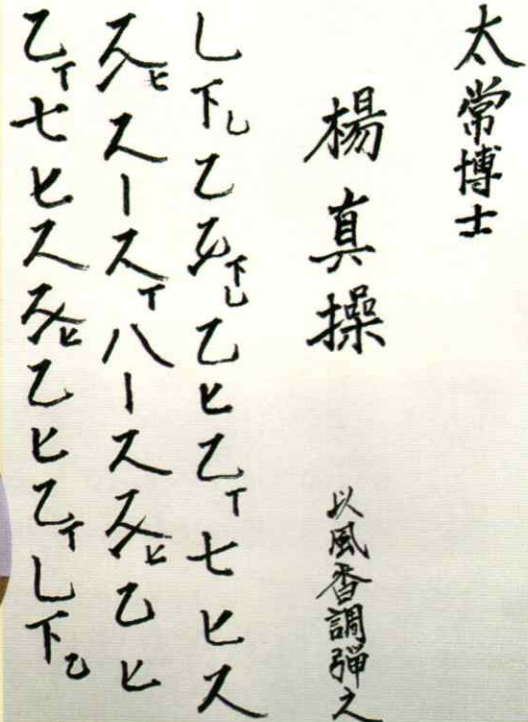
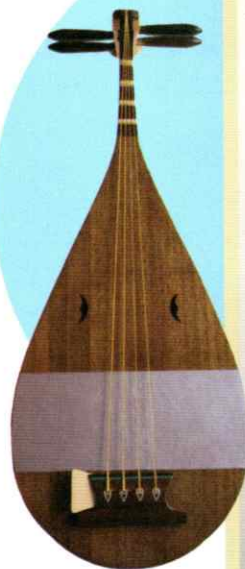
■楽琵琶の現在

雅楽合奏において、旋律楽器ではなくリズム樂器的な役割として演奏されている。

楽琵琶 「秘曲楊真操」譜面 冒頭部



中村かほる(助演)



国立音楽大学在学中、世界最古の琵琶譜、天平琵琶譜「番假崇」(芝祐靖氏復曲)の演奏に出会い、雅楽を学ぶ。龍笛を芝祐靖氏、楽琵琶・右舞を山田清彦氏に師事。雅楽奏者として琵琶・舞に携わる。雅楽古典及び現代作品、正倉院復元楽器(五絃琵琶・阮咸)の演奏、さらに音楽・文学研究者らと共に廃絶された楽琵琶秘曲・独奏曲の復曲プロジェクトにも演奏者として携わり、楽琵琶の魅力を追求している。

<https://kahorunakamura-b-sheet.jp>

平家琵琶

奈須与市 作者不詳

【あらすじ】

元暦2年(1185)2月18日、源平の戦(屋島の戦)も夕刻になり、互いに引き揚げ始めたところ、海上の平家方の舟に日の丸を描いた扇が立てられた。これを「陸地から射てみよ」との挑発と見た源氏方の大将、源義経は弓の名手、奈須与市(那須与一)に射落とすように命じる。この時与市は若干20歳、故郷の神仏に必死に祈り、風の勢いが弱った一瞬を捉え、波打際から矢を放つ。

【平家琵琶について】

■成立時代

鎌倉時代以降 琵琶法師が『平家物語』の語りの伴奏に用いたので、この名がある。

■材質

本体:塩地、紫檀、花梨、桑など 絃:絹糸 撥:黄楊(柘植)

■日本の社会、文化にどのような影響を与えたか

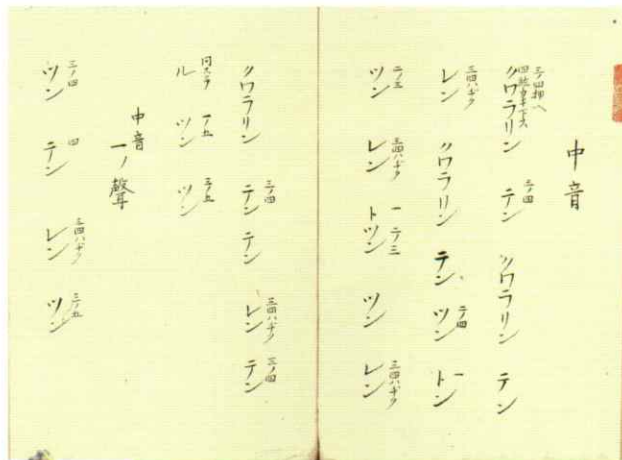
中世の人々に『平家物語』を文学ではなく音楽として広く伝え、能・浄瑠璃をはじめ、その後の日本の芸能や音楽に大きな影響を与えた。

■平家琵琶の現在

江戸時代からの伝承は続いているものの、演奏者は愛好家を含め10数名程。

平家琵琶「琵琶譜」 尾崎家本平家正節

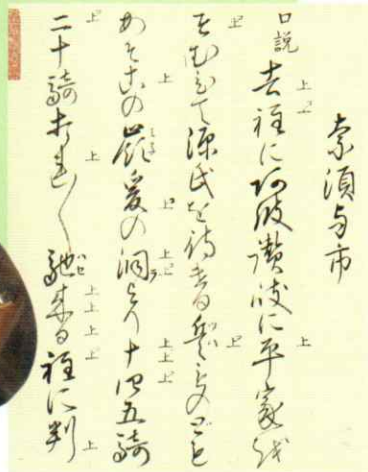
一部抜粋



奈須与市

平家琵琶「奈須与市」 尾崎家本平家正節

一部抜粋



田中奈央一 (助演)



東京藝術大学及び同大学院修士課程修了(箏曲山田流専攻)。文化庁新進芸術家国内研修員修了。NHK邦楽技能者育成会第50期首席卒業。箏曲の他に長唄三味線や江戸小唄を学び、NHKテレビ、ラジオ、歌舞伎公演、国立劇場主催公演など各種演奏会に出演し、2015年より平家琵琶の伝承にも取り組む。朗読音楽劇ユニット「声劇和楽団」共同主宰。
現在、東京藝術大学及び附属音楽高校非常勤講師。都立王子総合高校特別専門講師。

薩摩琵琶

雪晴れ

作詞/望月唾江

作曲/鶴田錦史

【あらすじ】

時は元禄15年12月14日未明。主君である浅野内匠頭の無念を晴らすため、大石内蔵助率いる赤穂の浪士四十七名が本所の吉良邸に押し入った。降りしきる雪のなか、鳴り響く陣太鼓の音。2時間の激闘の末、炭小屋に潜んでいた吉良を遂に発見する。吉良の首を討ち取り泉岳寺の主君の墓前に捧げる一同。夜は明け雪も止み、晴れた空には一筋の焼香の煙が立ちのぼるのであった。

【薩摩琵琶について】

■成立時代

戦国時代 主に薩摩藩の武家の男子が演奏し、のちに町人にも愛好されていった。

※諸説あり

■材質

本体:桑 絃:絹糸 撥:柘植、樺など

■日本の社会、文化にどのような影響を与えたか

武家の精神修練の意味合いもあり、ひいては日本の一般的な道徳観にも少なからず影響を与えた。

■薩摩琵琶の現在

江戸後期から明治にかけて、京都や東京にも進出していった。特にカリスマ的な奏者が幾人か現れ、情緒的にも音楽的にも発展し続けている。



川嶋信子(助演)

桐朋学園大学短期大学部芸術学科卒業。役者として活躍した後、薩摩琵琶を鶴田流/岩佐鶴丈に師事。平家ゆかりの地など各所での演奏やイベント出演の他、一日体験教室「まなびわ」を毎月開講するなど、普及活動にも尽力。また琵琶ひとひら会を立ち上げ、本年より「びわつくし(琵琶寄席)」を定期開催し業界の活性化に努める。NHK邦楽オーディション合格。琵琶楽コンクール上位入賞多数。



薩摩琵琶 「雪晴れ」 鶴田流譜面 一部抜粋

楽譜の抜粋部分。楽譜には日本語の歌詞と数字の指法が記されている。楽譜の上部には「蘆間に眠る水鳥の夢打ち 砕く陣太鼓」とあり、下部には「千、響き渡れば 吉良方は 備えを立つるいとほく」とある。楽譜の最後には数字「3」が記されている。

筑前琵琶

羅生門

作詞/佐藤菊南

作曲/三世橘旭翁

【あらすじ】

平安時代中期、京の都。世が治まり、源頼光はじめ平井保昌、四天王の貞光、季武、綱、金時らが酒宴をしていたところ、保昌が九条の羅生門に鬼が居ると言い出した。それを聞いた綱は確かめる為に上意を畏み、しるしの金札と賜びたる太刀に先祖伝来の大太刀を佩き、馬に乗り打って出た。急な激しい風に見舞われ馬は動かなくなり、雲間より現れた怪しい腕に兜の鍔をひっつかまれた。すかさず綱は髭切丸を抜き放ち遂に鬼の片腕を切り落とした。

【筑前琵琶について】

■成立時代

明治時代 成立当時、三味線音楽の要素も取り入れた。

■材質

本体:オモテ/桐 ウラ/桑 絃:絹糸 撥:黒檀、柘植、象牙

■日本の社会、文化にどのような影響を与えたか

一般大衆の熱狂的な支持を得て、エンターテインメントの側面も強かった。

■筑前琵琶の現在

琵琶全体に言えることだが、近年、アニメ等でも注目されている。今後、奏者や愛好家が増えることを期待。



鶴山旭祥(助演)

山崎旭萃(人間国宝)の静寂幽玄なる絃(いと)の響に強く惹かれ入門。高弟山下旭瑞に師事し、和太鼓から二転筑前琵琶の修練を積み師範資格を取得。日本琵琶楽コンクール上位入賞。



南二 羅生門

一 逢魔が時よ鳥羽玉の火
二 晝漏と有漏との歧路
三 誰に東寺の鐘の音
四 陰に結ばれうらひびき
四 鬼気身に迫り馬もまた
五 かくみ慄く羅生門
五 綱は金札打ち込みつ椿
七 鬣かえす折しもあれ
七 腥風忽ち雨を呼び
六 鳴神電乱れ飛び
五 天地草木震動す丁四
三 この時雲の間より

邦楽アンサンブル

五声のコンチェルティーノ

2002年 作曲/福嶋頼秀

【解説】

この楽曲は2002年、日本音楽集団・山形公演に向けて作曲しました。“五声”記号というだけあって楽器は5パート…尺八、三味線、琵琶、二十絃箏、打楽器…なのですが、当時はまだこの5人編成の曲がほとんどありませんでした。それまで7人・10人などそれ以上の人数で各地の公演を行っていたのですが、その頃から学校公演などをはじめ5人編成のニーズが高まったのを機に委嘱作曲。それは作曲家の入団・デビュー作でもあり、熱い想いを込めての作曲となりました。

この曲では全4楽章・約12分の中で、5つの楽器が順番に華々しくコンチェルト(=協奏曲)風に活躍します。第1楽章では二十絃箏が、颯爽とした音楽を繰り広げます。第2楽章は尺八と琵琶による“語らい”の静の世界。第3楽章はスウィングの跳ねるリズムに乗って三味線が踊り出す“宴”で、そのまま続く第4楽章は、小鼓をはじめとする打楽器の“乱れ打ち”で大いに盛り上がり曲を閉じます。

(2022年12月 作曲者 福嶋頼秀)

<日本音楽集団>

尺八/元永 拓 三味線/榎田弘大 琵琶(薩摩)/久保田晶子
二十絃箏/三宅礼子 打楽器/多田恵子

日本音楽集団 PRO MUSICA NIPPONIA

1964年創立。伝統的な日本の楽器である、箏・尺八・三味線・琵琶・笛・小鼓・太鼓などの打楽器、笙・箏などの雅楽器による和楽器オーケストラです。和楽器数十名と指揮者による大合奏は迫力満点です。

現在では、定期演奏会を中心に、全国各地での公演、教育機関での音楽鑑賞会、録音・放送・映画・演劇など様々な分野で演奏活動を行っています。海外では、ヨーロッパ、アメリカ、ロシア、中国、東南アジア、オーストラリア、南米等、32カ国152都市で公演を実施。アイザック・スターン、ヨー・ヨー・マヤ、ゲヴァントハウス・オーケストラ、ニューヨークフィルとの共演を実現、海外でも高い評価を得ています。文化庁芸術祭大賞、第2回音楽之友社賞、レミー・マタン音楽賞、モービル音楽賞など、受賞履歴多数。



【福嶋頼秀プロフィール(作曲家)】

全国のオーケストラからの依頼で多数の作曲・編曲・企画構成を手掛け、チョンミョンフン、メラニー・ホリディ、中村雅俊、TOSHI(X JAPAN)、藤井フミヤ、小林幸子、岩崎宏美、の各氏ほか国内外を代表する音楽家が作品を演奏。

和楽器作品も多数発表し、語りを伴う『酒呑童子』『たかこ』『パンダ銭湯』『おぼけのケーキ屋さん』『よるのわがしやさん』『タヌキの親子とトウモロコシ畑』の作曲や人気動画『傷林果』の編曲も。

またキッズ公演の構成、ドラマの音楽、歌番組『年忘れにっぽんの歌』の指揮など活動は多岐に。

琵琶五重奏

琵琶越天楽～ドンチャクワラリン～

委嘱初演 編・作曲/高橋久美子

【解説】

楽琵琶、平家琵琶、薩摩琵琶、筑前琵琶の4種、5人の奏者による「越天楽」をモチーフとした曲を、とのことで編・作曲させて頂きました。また、このコンサートのタイトルの一部「ドンチャクワラリン」をそのまま曲のサブタイトルに頂きましたが、「ドンチャクワラリン」とは、全ての琵琶に共通するというわけではありませんが琵琶の奏法の口唱歌のことです。ならばそれぞれの琵琶の古典的な奏法をふんだんに織り交ぜてみようと思いました。そうしているうちに、奏法が共通するもの、しないもの、またこの琵琶、撥だからこそできることなど創作の過程において色々と見えてきました。この「いろいろ」をならべて比べてみるからこそ、個々の琵琶の「色」である魅力を知ることであり、古から今までの琵琶がどのように発展してきたかを知ることにつながるのでは?とも思いました。今回の創作にあたっては各琵琶の奏者に演奏法を、また奏法の記譜法などに関しては薦田治子氏にご教授頂き誠にありがとうございました。

さて、撥によって(弓などを用いず)弾奏し、他の弦楽器と比べ音の減衰時間が短い、が、それ故にどこか哀愁があり独特な音色をもつ琵琶4種による「越天楽」は、どのような響きとなるのでしょうか。(2022年12月 編・作曲者 高橋久美子)

楽琵琶/中村かほる
平家琵琶/田中奈央一
薩摩琵琶1/久保田晶子
薩摩琵琶2/川嶋信子
筑前琵琶/鶴山旭祥

琵琶越天楽～ドンチャクワラリン～ 譜面 一部抜粋



【高橋久美子プロフィール(作曲・編曲家)】

クラシックはもとより邦楽、演劇、ミュージカル、映像音楽等ジャンルを超えた作曲活動を国内外で行っている。また邦楽曲においては、必ずその楽器を所有し習得してから創るというスタイルをとっている。作曲を田辺恒弥氏に師事。作曲家グループ<邦楽2010>代表、日本音楽集団団員。平成30年度文化庁芸術祭レコード部門優秀賞受賞CD「解体新譜」(邦楽ジャーナル)。

Photo by Koshu ENDO

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA



本日は、ご来場いただきまして誠にありがとうございます。

“琵琶”という楽器・芸能は知れば知るほどおもしろく、今を生きる琵琶奏者たちも、音色や奏法、物語の真髄の追及に暇がありません。ただやはり現代では、琵琶関係者と一般の聴衆の皆様との間には隔たりができてしまっているように感じます。そこで、少しでも琵琶を身近に親しみをもっていただけるよう、この公演を企画いたしました。平安時代から続く琵琶から、令和のアンサンブルまで、音色・歌・音楽を聴き比べていただきます。この短い公演時間の中では、それぞれの魅力や性格について到底語り(弾き)尽くせませんが、琵琶への興味の“入り口”になれるよう努めます。

琵琶は決して特殊なものではなく、日本の心に深く溶け込んでいます。多くの方に琵琶に親しみと厳しい耳を持って接していただけるよう、この公演を第一歩として取り組んでいきたいと存じます。

(日本音楽集団 久保田晶子)

【笛】 あかる潤 遠藤悠紀※ 芝 有維 新保有生 孫 瀟夢※ 竹井 誠	【尺八】 饗庭凱山 大賀悠司 川俣夜山 阪口夕山 田野村 聡 原郷 隆 藤崎重康 洲上ラファエル広志	【三味線】 杵家七三 長井麻江 二代目 三山貢正 穂積大志 簗田弘大 簗田司郎 守啓伊子 山崎千鶴子	【箏】 石井香奈 伊藤麻衣子 岡山亮子 久東寿子 熊沢栄利子 桜井智永 佐藤里美 島崎春奈※ 城ヶ崎美保	【打楽器】 白杵美智代 尾崎太一 島村聖香※ 多田恵子 富田慎平 山内利一 盧 慶順	【作曲】 相澤洋正 秋岸寛久 川崎絵都夫 篠田大介※ 高橋久美子 福嶋頼秀	アートマネジメント/大西 愛子※ 楽器・舞台/中島 隆 名誉代表/田村 拓男 代表/尾崎 太一 副代表/米澤 浩 事務局/中山 美穂子 永久名誉団員/長澤 勝俊 ☆印は新入団員 ※印は休団中 (2022年11月現在)
【笙】 三浦はな 東田はる奈☆	元永 拓 米澤 浩 渡辺 淳	【琵琶】 久保田晶子 田原順子 藤高りえ子	久本桂子 丸岡映美 三宅礼子 森真理子 山田明美 喜羽美帆 渡辺正子	【指揮】 稲田 康 田中元樹 苦米地英一		
【箏篋】 西原祐二 三浦元則						

『賛助会員へのお誘い』

1999年10月、特定非営利活動法人として日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動の定着と発展を目指したく、ご協力をお願い申し上げます。

年会費

個人会員10,000円(一口以上)

法人会員30,000円(一口以上)(年3回の定期演奏会への招待状を毎回ご送付)

詳細は日本音楽集団事務局までお問い合わせください。

またホームページにおいても、申し込み方法など詳しくご案内しております。



主催:特定非営利活動法人 日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビルB1F

電話:03-3378-4741 FAX:03-3376-2033 <http://www.promusica.or.jp>

演出:久保田晶子 運搬・舞台:琴光堂

制作/広告協力:琵琶ひとひら会 協力:(有)古典空間 デザイン:千山ユキ

